

# 大野北地区

# 史跡MAP マップ

- 1 御所之入横穴古墳(御姫畑)
- 2 御嶽神社
- 3 上矢部の板碑
- 4 薬師堂
- 5 水汲み街道(上矢部街道)
- 6 揚場跡
- 7 矢部氏居館土塁跡
- 8 子育て地藏尊
- 9 弥生式土器発掘の地
- 10 椿 稲 荷
- 11 赤 沼 跡
- 12 淵野辺山王平遺跡
- 13 日枝神社・天野兼三郎頌徳碑
- 14 延命地藏
- 15 根岸橋水車跡
- 16 菖蒲沼跡
- 17 新田稲荷神社
- 18 第六天神社
- 19 淵辺義博とその居館跡の碑
- 20 淵辺義博が大蛇を射た所
- 21 八王子千人同心旧家
- 22 お茶畑
- 23 皇武神社
- 24 旧中淵二本松跡(まつくれっぱ)
- 25 縁切り榎
- 26 わかれ橋(中里橋)
- 27 当麻山道道しるべ
- 28 龍像寺
- 29 岡野氏一族の墓地
- 30 旧古淵一本松跡



# 大野北地区 史跡MAP マップ

## 1 御所之入横穴古墳 (御姫畑)

上矢部 1-13

御所之入で二つの横穴古墳が発見された。1号横穴の棺座から刀子2点、男性人骨2体が、2号横穴の棺座からは布の切れはしと土師器(はじき)の破片2点、女性人骨1体が発見された。現在、宅地化され存在しない。

御所之入古墳が所在する小丘は、おひめばたけといわれた。ある時代に美しいお姫様がさすらいの果てにこの地へたどり着き、この地で余生を送ったとされ、小祠を祀ったと言われている。この時に12人の家来が「くぐつ師」(人形を操る芸人)に身をやつし随従して姫の最後を見送ったが、後にこの地に居を構え、「12軒村」と言ったそうである。

## 2 御嶽神社

上矢部 2-23

矢部義兼がこの地に居館を構え、豪族となり武運長久・子孫繁栄のため一社を設ける。この地域の鎮守。日本武尊(ヤマトタケルノミコト)を祀ってある。境内には鐘楼・狛犬・御神燈・八坂社・弁財天社・第六天社等のほか拝殿面両脇に「文政十年国と名主安藤銀蔵」の小石柱がある。例祭は9月笹湯の湯立神事が行われる。湯立(湯花)神事は四隅に青竹を立て縄を張り中央に三叉を組み、それに大釜を乗せ湯を沸かす。氏子総代、役員の本番が準備にあたる。例祭神事式典終了後に全員が結界の外に集まり、神主は釜湯の前で祝詞を述べ、初湯を神前に捧げたのち、釜の湯に笹葉を浸し周囲の人々の頭上に振りかける。この神事が厄除け、家内安全、氏子繁栄にご利益があるといわれている。

## 3 上矢部の板碑

上矢部 3-12

平成13年4月、相模原市指定有形文化財に指定される。板碑は死者を弔ったり、自分が極楽往生できるように生前にたてた石の卒塔婆だが、この板碑は上部が三角形になっており、二線の下に阿弥陀如来像があり、下左右に蓮花の花瓶を刻み、中央に「乾元二年八月日」と刻字されている。この乾元二年碑(1303年建立)の由来は碑面にはないが、鎌倉時代にこの地に居館を構えた矢(野)部三郎義兼とその一族の供養碑との由来がある。

## 4 薬師堂

上矢部 4-15

本尊薬師瑠璃光如来、脇侍に日光・月光両菩薩をたて、両手で薬壺の印相をひざの上で結んでいる。鎌倉時代の横山党の矢部一族居館の裏鬼門にあたる。薬師如来は約1メートルの木造坐像で、諸災諸病を除くといわれる。

## 5 水汲み街道 (上矢部街道)

上矢部 5-20

上矢部村を通る道なのでこのように呼ばれていた。また、矢部新田を開拓した人が境川の水を汲みに通ったことから「水汲み街道」とも言う。

## 6 揚場跡

上矢部 4-14

製糸産業が栄えていたころ、農家で小枠にとった生糸を大枠に揚げて製品としていた工場を揚場と言った。紡いだ糸を一束づつ枠に巻いて東ね、生糸という商品が完成する。

## 7 矢部氏居館土塁跡

上矢部 5-1-22

鎌倉時代の武将矢部義兼の居館の土塁跡と伝えられている。淵野辺境橋線改修拡幅のため土手は削られ、わずかに残されている。近年の発掘調査で土塁の外側にあったと考えられる堀の一部が確認されています。

## 8 子育て地蔵尊

上矢部 5-13

元文元年(1736)、徳川吉宗公の時代に越後国首城郡早川浄寛村、高橋安右ヱ門がこの地に建立。古くから子育てに霊驗があるといわれている。

## 9 弥生式土器発掘の地

上矢部 5-20-10

昭和45年故平本正義氏が耕作中に発見。発掘された遺物は弥生式甕形土器の一部。市内で弥生時代の土器が発見されたのは珍しい。

## 10 椿稲荷

淵野辺本町 1-8

金子一族(四軒村)の守護神として祀られ、境内にご神木としての大きな椿がある。

## 11 赤沼跡

淵野辺 2-25 (淵野辺あかぬま公園内)

雨期になるとこの辺のくぼ地一帯に水がたまって沼となり、赤みを帯びていたと伝えられている。

## 12 山王平遺跡

淵野辺本町 1-22

マンション建設のため平成6年2月1日から12月17日まで遺跡調査団が、同地約5,400㎡を発掘調査した。調査は縄文時代の遺物と遺構の検出から行われ、遺物は同時代の中期後半(約4,500年前)の土器・石器が、そして同時期の集落が発見されている。同年9月から併行して行われた旧石器時代の調査では、境川に向かう台地の肩部から2,052点の遺物(槍先形尖頭器、ナイフ形石器、スクレイパー(物を削ったり皮をなめす道具))が発見された。これらの遺物群はその出土した深さから4枚の文化層に分けられ、今から20,000~25,000年ほど前の人々が残した生活の跡と考えられている。

縄文時代の調査では竪穴住居跡57軒、堀立柱建物跡5棟、土壇109基、埋甕3基、集石6基が発見され、これらの遺構群は、境川に向かって小さく張り出す台地上に縄文時代の中期に営まれていた集落の一部で、住居が半円を描くように認められ、その内側の直径約40mの広場から土壇群や堀立柱建物跡が検出された。出土した遺物は大量の土器片と石器類で、土器は復元により完形となったものが約200個片、また特殊な遺物としては、土偶や耳飾りなども発見されている。なお、ここで生活していた期間は縄文中期後半(4,400~4,900年前)のうち200年間と見られている。

## 13 日枝神社・天野兼三郎頌徳碑

淵野辺本町 1-36

日枝神社は、徳治2年(1307)の建立。天文11年(1542)8月に北条氏康の関東平定のための祈願所とした。社殿は度々修復しており、現在の社殿は昭和42年に再建。

天野兼三郎は学を好んだが、如何なる処の師を仰いだかは詳らかではない。早くから戸長役場に書記として勤務。郷土発展に尽くしたことは碑文のとおりである。明治22年(1889)大日本帝国憲法施行に伴い初の大野村村会議員12名の1人に選ばれ、続いて明治26年から28年まで大野村村長の要職にあり、教育振興や殖産工業の発展に尽くした。横浜鉄道淵野辺停車場の設置に尽力した。

## 14 延命地藏

淵野辺本町 3-37

本地蔵尊の起縁は鎌倉時代にさかのぼるといわれている。新生児の生命を守るなどの諸願をかなえてくれるとのことで信仰を集めている。昭和56年(1981)に地元有志が賛助金を募り、木造一坪の堂宇が同年10月20日に落慶した。

## 15 根岸橋水車跡

淵野辺本町 3-36

根岸橋上流200mの場所は、境川が曲折して落差があり、水車が設置されていた。

## 16 菖蒲沼跡

淵野辺 5-1

でいらぼっちの足跡でできた沼と言われているが、現在は埋められている。

## 17 新田稲荷神社

共和 1-11

文政元年(1818)に久保沢道下に建立。境内の左側にある細戈(くわしほこ)神社は昭和20年に陸軍兵器学校より移転。境内の小さな丘は新田開発以前からある「呼ばわり山」で迷子や行方不明者を、鐘や太鼓をたたいて呼ばると、生きている限り必ず現れるという民間信仰の場所。山の頂上に今熊神社がある。「呼ばわり山」は平成14年4月1日相模原市登録史跡に登録された。

## 18 第六天神社

淵野辺本町 3-36

淵野辺一族の鎮守。井上氏の敷地内にあつたが、地続きの崖地に昭和61年第六天供養塔「第六天社」が建てられた。

## 19 淵野義博とその居館跡の碑

淵野辺本町 3-26

淵野義博は淵野辺村の地頭で、足利尊氏の弟直義の家臣。建武2年(1335)、駿河国手越河原(静岡県安部川のほとり)で北条氏と合戦し、直義の身代わりになって討ち死にしたと伝えられている。屋敷跡といわれる地点は境川段丘上にあり、旧家天野氏の宅地にかけての一角である。「碑」は昭和49年天野氏の敷地に建てられた。

## 20 淵野義博が大蛇を射た所

淵野辺本町 5-12

河本一郎氏宅地内の境川を見下ろす地点にある。大椋に巻き付いた大蛇を、淵野義博が矢を放って退治した所と伝えられている。

## 21 八王子千人同心旧家

淵野辺本町 3-40-22

千人同心は上級農民で結成された武士団で主として甲州口の警備にあつた。小川家の祖先は八王子千人同心として八王子千人町の居館に仕えた。

## 22 お茶畑

淵野辺本町 3丁目から東方一帯

江戸末期頃お茶の木がたくさん植えられた。この茶畑は八王子道上(東淵野辺3)まで広がっていて、中にはいると迷子になったという。その頃の名残が地名となっている。

## 23 皇武神社

淵野辺本町 4-20

祭神は日本武尊(ヤマトタケルノミコト)。御嶽大権現と称し元和年間(1615~1623)再建の由。延宝年中に武相境川縁、字嶽ノ

内に遷座し、明治5年(1872)に村内協議の上、字中村嶽之内の現在地に遷座。村社皇武神社と改称。明治5年に神社裏に淵博学舎が創立された。養蚕にまつわる「おきぬさま」伝承がある。

## 24 旧中淵二本松跡 (まつくれっぱ)

東淵野辺 1-10

現在のカルピス工場敷地の東端の辺にあつた。街道筋の大松でよく目立ったが、追いはぎが出たと伝えられる。「まつくれっぱ」と呼ばれ、馬が一休みしたり、死馬を埋めたところとも言われている。

## 25 縁切り榎

東淵野辺 2-29

護良親王を石巻へお連れするにあたって淵野義博主従が妻や子の義喬と榎の下で縁を切ったことから縁切り榎と言われ、現在も榎がある。

## 26 わかれ橋 (中里橋)

東淵野辺 2-29

護良親王を石巻へお連れするにあたり、淵野義博主従が妻子や村人と別れを告げた。

## 27 当麻山道道しるべ

東淵野辺 3-3

当麻山道は江戸時代時宗信者が往来した道。江戸方面より本道(町田)を通り相模原台地を横切って当麻山無量光寺に至る参詣の道で、この道しるべには文久元年(1861)の銘がある。

## 28 龍像寺

東淵野辺 3-25-1

山号を淵源山と呼び、曹洞宗の寺院。この寺の縁起によると暦応年間(1338~1342)に、寺の東方を流れる境川に大きな「竜池」という淵があり、そこの大蛇がたびたび人畜に害をおよぼし、村人は他村へ離散するようになった。この地の地頭淵野義博が幕府から大蛇退治の許可を得て矢を射って退治した。蛇体は三段に切れてどび散り、各々の場所に葬って、竜頭・竜像・竜尾の三寺が建てられていたが荒廃し、巨海和尚が龍像寺を再建した。寺宝として、淵野義博が使用した鎌(やじり)と竜骨の一部が保存されている。なお、竜頭寺は現在の古淵松台の辺、竜尾寺は現在の淵野辺本町山王平にあつたとされる。

## 29 岡野氏一族の墓地

東淵野辺 3-25

龍像寺左手山門の背後の崖の中腹に龍像寺歴代住職の墓があり、その左側に旗本岡野氏(淵野辺村地頭)累代の墓がある。平成14年4月1日相模原市指定史跡に指定された。石碑に岡野氏一族の云われが書かれてある。

## 30 旧古淵一本松跡

東淵野辺 3-25

龍像寺前の道を東に行くと右側に龍像寺山門跡の石碑がある。その上り坂を左に50mほど行くと、一本松跡地の標示が立っている。そこが当麻山道と左手に分かれて磯部街道との分岐点です。磯部街道は他に大山街道・道者みち・御尊權御成道(ごそんびつおなりどう)などの呼び名を持っている。

【参考文献】  
○第30回相模原市文化財展 大野北の文化財巡り ―歩いて学ぼう相模原の歴史―  
平成16年10月25日発行  
○大野北史跡めぐり 昭和58年7月発行  
調査・編集：大野北郷土の会 発行：大野北公民館